コラム

# 国際バカロレア DP 認定までのプロセス

茗渓学園中学校高等学校　小笹 哲夫，松崎 秀彰，中村 泰輔，Yvette Flower，田代 淳一

## 1．はじめに

国際バカロレア(IB：International Baccalaureate)は，本部をジュネーブに置く国際バカロレア機構(IB 機構)[1]が提供する国際的な教育プログラムである。1968 年に開設されて以来，チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして様々な国の教育現場で注目を集め続けている。IB の教育プログラムは生徒の年齢や目的に応じて 4 つあり，3 ～ 12 歳対象の PYP(Primary Years Programme)，11 ～ 16 歳対象の MYP(Middle Years Programme)，16 ～ 19 歳対象の DP(Diploma Programme) および CP(Career-related Programme)が提供されている。これらのうち DP では，所定のカリキュラムを 2 年間履修し，最終試験を経て所定の成績を修めると，国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)が取得できる。さらに，これまでの DP では「母国語」を除く科目を原則としてすべて英語，フランス語またはスペイン語で実施する必要があったが，DP の科目を英語とともに日本語でも実施可能とする DLDP(Dual Language Diploma Programme)としての「日本語 DP」が認められ，一部の認定校では平成 27 年 4 月から日本語 DP 課程が実施されている[2]。

本校は，2016 年 7 月 20 日付けで，DP を実施する「IB ワールドスクール」の認定を IB 機構により受けており，2018 年 4 月から高校 2 年生を対象に日本語 DLDP の授業をスタートする予定である。本コラムでは，DP のカリキュラムの概要や認定に至るまでのプロセス，これからの取り組みについて述べる。

## 2．DP のカリキュラム

DP のカリキュラムでは，表 1 の各グループから 1 科目ずつ選択し，計 6 科目を 2 年間で履修する。ただし，科目によっては他のグループからの科目にかえることも可能である。さらに，プログラムのコアとなる「課題論文(EE：Extended Essay)」，「知の理論(TOK：Theory of Knowledge)」，「創造性・活動・奉仕(CAS：Creativity/Activity/Service)」の 3 つが必修となる[2]。

表 1　DP 開設科目の例

| グループ名 | 科目例 |
|---|---|
| 1 言語と文学(母国語) | 言語 A：文学，言語 A：言語と文学 |
| 2 言語習得(外国語) | 言語 B，初級語学，古典語学 |
| 3 個人と社会 | 経済，地理，歴史，環境システムと社会 |
| 4 理科 | 生物，化学，物理，コンピュータ科学 |
| 5 数学 | 数学ＳＬ(標準)，数学ＨＬ(上級) |
| 6 芸術 | 音楽，美術，演劇，ダンス，フィルム |

## 3．DP 認定のプロセス

IB ワールドスクールとなるには，実施する前に IB 機構による認定を受けなければならない(図 1)。

Ⅰ. 検討段階
　スクールインフォメーションフォームの提出
↓
Ⅱ. 候補校申請
　候補校申請書の提出
↓
Ⅲ. IB 機構による候補校認定
↓
Ⅳ. 候補校段階
① コンサルタント訪問(候補校への訪問 1 回)
② 『認定校申請書』の提出
③ IB 機構による確認訪問
↓
Ⅴ. IB 機構による認定の決定

図 1　IB ワールドスクール認定までのプロセスの概略

各段階の詳細は以下の通りである。

**・スクールインフォメーションフォームの提出**

簡単な学校情報を IB 機構に送る。なお，IB 機構へ提出する書類は基本的にすべて英語で記載する。

**・候補校申請書の提出**

学校の IB 導入の責任者(管理者)は，Administrator となるためのワークショップを事前に受講・修了する必要がある。その後，学校の理念・組織・カリキュラムや予算案などを記載した申請書を提出する。IB 機構に提出するタイミングは毎年 4 月と 10 月の 2 回ある。

**・IB による候補校認定**

IB 機構が申請書や関連書類を確認し，申請校が各種の条件を満たしていると判断すると，候補校として認められる。

**・コンサルタント訪問**

学校が候補校として認定を受けた後，IB 機構がコンサルタントを決定する。コンサルタントは候補校を訪問し，必要なアドバイスを与える。コンサルタント訪問の結果は，後日，コンサルテーションレポートとして学校に通知される。

**・認定校申請書の提出**

コンサルテーションレポートの各評価を受けて不足部分の改善を行うと，コンサルタントから学校に認定校申請書の提出の許可通知がある。この通知を受けて，学校は認定校申請書を IB 機構に提出する。

**・IB 機構による確認訪問**

確認訪問団(通常 2 名)が学校を 3 日間訪問し，認定校となるための準備が整っているか最終的な確認を行う。訪問期間中に，施設確認，教職員(校長，コーディネータ，各教員など)との面談，生徒および保護者との面談などが行われる。

**・IB 機構による認定の決定**

確認訪問の結果を受けて，その評価がよければ認定校としての認定通知があり，認定校となる。なお，認定校となった後も，学校は 5 年に一度定期的に実施される IB 機構の定期評価訪問を受ける必要がある。

## 4．IB 教員になるには

教員が IB の授業を行うためには，IB 機構が主催する原則 3 日間のワークショップを修了し，IB 教員の資格を得る必要がある。ただし，科目シラバスが改訂されると，教員は再度ワークショップに参加しなければならない。最近では，IB 教員の養成を目的とした大学の学士課程や大学院修士課程も設置されつつある。

## 5．科学実験室について

DP では科学実験室についてのガイドラインが存在し，安全性への配慮についての規則や機器・装置について達成が望まれる項目が示されている。特に，安全性への配慮については厳格に守る必要があり，以下に例を示す。

・ガス供給は，本管またはガスボンベからのガスにする。ガスボンベのガスの供給装置は外に設置。
・ガスや電気には，一括停止のできるマスタースイッチを設置。
・安全装備として，消火器，防火用毛布，ドラフト，非常用シャワー，応急用具一式と洗眼場所を用意。
・すべての化学薬品とその他の危険な器具は，生徒が直接立ち入ることのできない施錠可能な換気された部屋に保管。
・化学薬品を用いる際には，保護用実験着(白衣)と保護メガネ(ゴーグル)を着用。強い酸や塩基を扱う際には，保護用手袋を着用。レーザー光，加熱，ストレステスト用物質などを取り扱う物理実験では，適切な安全ゴーグルを着用。
・実験室の壁の目立つ場所に安全規則を掲示。

これらの項目については，コンサルタント訪問および確認訪問でチェックが行われる。

## 6．おわりに

本校の場合，2017 年度は数科目で高校 1 年生を対象に Pre-IB 科目を置き，今まで IB 式の授業を受けた経験のない生徒を対象に予習・討議・エッセイ中心の学習スタイルを身につけさせる予定である。そして，2018 年度からの DP 科目スタートに向けて，細かい指導内容と指導方法，評価プロセスを確認していく。

日本政府と文部科学省が奨める日本語による DLDP を導入する場合，現在教壇に立つ日本人教員が DP を指導することになる。指導した生徒が世界標準のカリキュラムで DP を取得できるのか，日本人教員の挑戦が始まる。

参考 URL

1）International education - International Baccalaureate®
（http://www.ibo.org/）

2）国際バカロレアについて：文部科学省
（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm）